

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：若手研究 (B)
研究期間：2007～2011
課題番号：19720085
研究課題名 (和文) アリュートル語音声資料によるテキスト資料データベース構築とそれにもとづく記述研究
研究課題名 (英文) Construction of a textual database and descriptive study of Alutor on the basis of unpublished audio materials
研究代表者
永山ゆかり (NAGAYAMA YUKARI)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員
研究者番号：20419211

研究分野：言語学
科研費の分科・細目：言語学
キーワード：形態論、記述言語学、テキストデータベース

1. 研究計画の概要

アリュートル語はチュクチ・カムチャッカ語族に属し、ロシア連邦カムチャッカ半島の北部に位置するコリヤーク自治管区で話されている言語である。話者人口は 200 人から 300 人程度と見られており、主な話し手は 50 代以上の世代で、すでに子供にはほとんど継承されていない消滅の危機に瀕した言語である。本研究は消滅の危機に瀕したアリュートル語の音声資料をテキスト化してデータベースを構築し、言語学者だけでなく、この言語の話し手やこれからこの言語を学ぼうとする彼らの子孫によっても利用されうるような形で整理・公開することを目的とする。

本研究では、研究代表者がこれまで収集した音声資料に加え、ロシア人の文化人類学者マリユコーピチ氏が 1960 年代から 80 年代にかけてアリュートル語カラガ方言を中心に収集した音声資料の整理・分析をすすめてテキストデータベース化する。

2. 研究の進捗状況

これまでに、研究計画にしたがい、3度の国内出張および3度の国外出張(ロシア、カムチャッカ地方)を行なった。

国内出張では、他言語でテキスト資料のデータベース化をおこなっている国内の研究者と打ち合わせを行なった。また国外出張では旧ソ連期に収集された文献資料および音声資料のデジタル複製を行ない、資料の分析作業を進めている。さらに、文法にかんする聞き取り調査をするとともに、既存資料の分析および新たな民話資料(音声・映像)の収集・文字

化をおこなっている。新に収集した資料および過去に収集した資料はすべてデジタル化し、ほかの研究者およびこの言語の話し手と共有しうるようにデータベース化を進めている。

3. 現在までの達成度

当初の計画どおりに進展している。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 引き続き海外調査により既存資料の文字化と分析を進め、注釈つきテキスト資料として順次公開する。オンラインで公開する際には海外の研究者も利用しうるようにロシア語訳および英語訳をつける。

(2) 分析した資料の一部をテキスト集として出版し、この言語が話されている共同体に配布し、研究成果の還元をめざす。

(3) 引き続き整理・分析した資料をもとにこの言語の記述研究を進め、研究成果を国際学会および学術雑誌で発表する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

(1) NAGAYAMA Yukari, Factors for Language Decline in the Russian Far East: A Case of the Alutor in Kamchatka, Acta Slavica Iaponica, Volume 25, 187-202, 2008, 査読有.

(2) NAGAYAMA Yukari, Possessor Raising and Noun Incorporation: A Case of Alutor in

Russian Far East, Current Issues in Unity and Diversity of Languages: Collection of Papers Selected from the CIL 18 [CD-ROM], 2389-2298, 2009, Linguistic Society of Korea: Seoul, 査読有.

(3) 永山ゆかり, アリユートル語テキスト: アンニヤックの話ほか2編 (Three Alutor tales: A story about Annyakku and others), 『環北太平洋の言語』第15号, 131-146, 富山大学人文学部, 査読無.

〔学会発表〕 (計 3 件)

(1) NAGAYAMA Yukari, Possessor raising and incorporation: A case of Alutor in the Russian Far East, The 18th International Congress of Linguists, Workshop 7: Language diversity, 2008年7月21日, Korea University, Seoul.

(2) NAGAYAMA Yukari, Problems in Sharability of Language Data (Colloquium of Language Documentation Research in Japan: Up until now and the future), The 1st International Conference on Language Documentation and Conservation, March 12th-14th, 2009, University of Hawai'i at Manoa, Honolulu.

(3) Y. Nagayama and I. Nagasaki, Studies of Paleosiberian Languages in Japan, III Международная конференция по полевой лингвистике [The Third International Conference on Field Linguistics], 19—22 October 2009, Institute of linguistics, Moscow.

〔その他〕

アリユートル語テキスト

「北東ユーラシアの言語文化」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

<http://www.ling-atlas.jp/r/tale/show/133>